

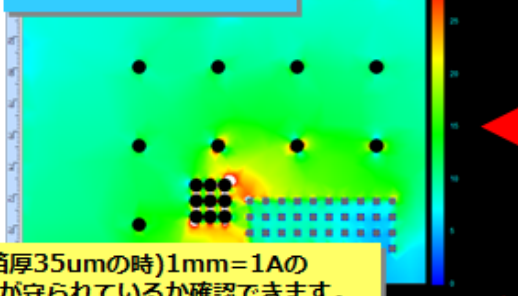
プリント回路設計関連 PIシミュレーションの詳細

【PIシミュレータの特徴】

- 解析時間が非常に短く、解析結果をパターンへフィードバックし、修正箇所の再解析をタイムリーに行うことができます。
- 簡単な操作で誰にでも解析ができる仕組みになっており、パターン設計者自らが手軽に電源パターンの検証を行う事ができ、PI品質の向上に最適です。

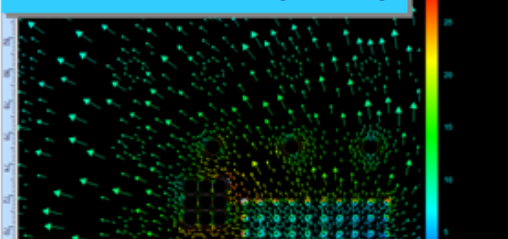
レイアウト・インターフェース
Altium/Cadence/
Mentor Graphics/図研など

電流密度解析(A/mm²)



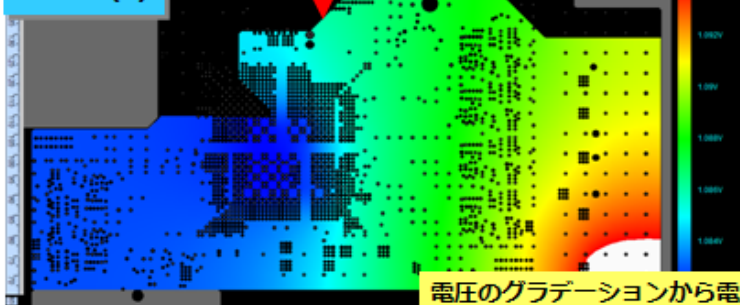
(銅箔厚35umの時)1mm=1Aの
原則が守られているか確認できます。

電流密度・ベクトル表示 (A/mm²)



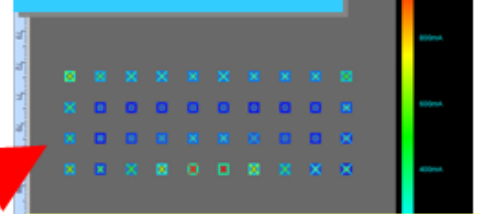
電流のルートがベクトル表示で確認できます。
電流のリターン経路を確認して
スムーズな経路に修正する事が出来ます。

電圧解析(V)



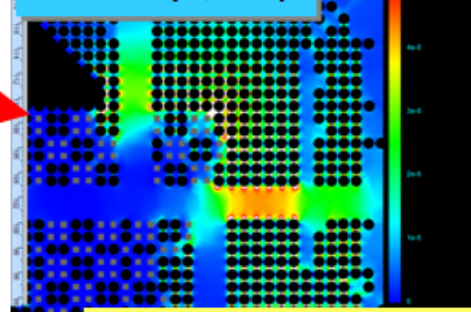
電圧のグラデーションから電圧降下の場所が特定でき、
ピンポイントでの対策が可能です。

ピア電流解析(A, A/mm²)



電圧降下や電流・電力密度の結果より
位置を特定し、ピア配置の適正化、
ピアの過不足検証を行う事が出来ます。

電力密度解析(W/mm²)



電圧降下、エネルギーの損失が
発生している箇所がわかります。

電圧降下の少ない電源パターンを形成できます